



インカ道、
南北の道



インカの壺
(15世紀~16世紀)

サービス

ツアーガイド
学校団体は5日前の予約を推奨しております。
reservaspachacamac@cultura.gob.pe

入場料

大人: 15ソル
学生: 5ソル
子ども: 0ソル
65歳以上: 7.5ソル
(年齢を確認できるものが必要です)

住所

Antigua Panamericana Sur Km. 31.5, Lurín
電話: 3215606

営業時間

火曜日~土曜日: 9時から17時
日曜日: 9時から16時
入場券の販売は閉館時間の30分前までとなります。



SITIO ARQUEOLÓGICO PACHACAMAC

パチャカマック遺跡博物館

博物館の売店

博物館の売店では、書籍、手工芸品、パチャカマック神の木製のイドロ(偶像)のレプリカといったお土産品を取り揃えています。

特別見学路

「巡礼者の道」という特別見学路を開放しています。事前予約が必要で15人以下の団体に限ります。入場料は一人20ソルです。

教育プロジェクト

当施設では建築、土器、プレヒスパニックの作物、織物、キプスなどについて学べる教育プログラムを実施しています。

MUSEO 
PACHACAMAC

ホームページ <http://pachacamac.cultura.pe>



www.cultura.gob.pe

協力: ペルー日系人協会



<https://www.apj.org.pe/>





アクリャワシ
聖なる乙女の館

プレヒスパニック期、1200年以上もの
間パチャカマックはペルー海岸部で
最も重要な巡礼地でした。

パチャカマックでは、古代アンデスの祭儀で重要な儀式の一つが執り行われていました。地方の部族の長たちが儀式で信託を聞くために長い巡礼の旅をして集まってきたといいます。これが、パチャカマックが高い名声を誇っていた理由にもなっています。パチャカマック神は自信を司る神と見なされ、大変恐れられていました。神の頭が少しでも動くとか天変地異が起ると信じられていたのです。巡礼地内の建造物群は、この地が長年に渡って重要な役割を果たしてきたことを示しています。

この地の最初の支配は紀元前およそ200年、形成期に遡ります。期限後、リマ文化が定着し、最初の建造物が建設されました。しかしながらこの文化は周辺地域にのみ影響力を持っていました。巡礼地としての起源はワリ帝国文化または中期ホライズンの起源後650年頃と考えられます。この頃からアンデス各地より巡礼者がパチャカマックの地にやってくるようになったようです。

その後、地方王国期または後期中間期と呼ばれる紀元後1100～1470年頃にはイチマがこの地方を支配していました。イチマの人々はアドベ（日干しレンガ）造りの大きなピラミッドや鳥や魚などを鮮やかに描いた階段状の美しい神殿などを建設し、聖地としてのパチャカマックの大部分を作りました。

インカ帝国の支配下では、パチャカマックの聖職者達はタウンティンスーユ（四つの州という意味。インカ帝国の本来の名称）の象徴を受け入れ、インカは太陽の神殿やアクリャワシ（聖なる乙女の館）を受け入れ、インカは太陽の神殿やアクリャワシ（聖なる乙女の館）を建てました。今日でもインカ帝国全土から訪れた巡礼者達が通行していた道を見ることができ、その堂々たる太陽の神殿からは海や島々、肥沃なルリン谷を一望することができます。

パチャカマック神と奇跡の神（パチャカミヤのキリストもしくは地震の神としても知られている）信仰は連続性を持っていたのではないかと複数の研究者が指摘しています。

遺跡見学路

パチャカマック遺跡の遊歩道は全長3キロあり、様々な建造物や都市の道路網を見ることができます。見学路は小さな日干しレンガの建物から始まります。これはこの地で最も古い建物で（リマ文化、紀元後200～650年）、本棚のように並べられた建築技術が特徴的です。パチャカマックには紀元後1100年～1470年頃のイチマ文化の頃に建設された、傾斜路のあるピラミッドが17あります。その中でも傾斜路のあるピラミッド1、2、3は傑出しています。

織物
(紀元後1000年～1300)



展望台からは木製のパチャカマック神が見つかった彩色神殿（200～1470年）や、アクリャワシまたはママコナ（インカ時代1470～1533年）を見ることができます。ここでは信仰やインカに仕えるために選ばれた女性たちが生活していました。太陽神殿とタウリチュンピ（インカ時代1470～1533年）にはその建物の周囲に見学路を設置しており、さらに詳しく見ることができます。

博物館

パチャカマック遺跡博物館は広い常設展示室ホール、売店、カフェテリア、中庭などを完備し、皆様のご来場をお待ちしています。同時に遺跡の発掘、保護など各分野の専門家たちが仕事に専念できるように調査研究施設も兼ね備えています。これにより遺跡がもつ文化的意味を高め、この文化遺産を将来にわたり保存することができるでしょう。